

## 教員公募要項

山形大学農学部

件名	山形大学 学術研究院（農学部寄附講座（食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座）（准教授）募集	
機関名	国立大学法人 山形大学	
機関 URL	http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html	
部署名	農学部	
部署 URL	http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/	
公募の URL	http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/koubo.html	
募集職種	准教授	
勤務形態	常勤・任期付き（最長2021年3月31日まで。人事評価に基づき1年ごとに更新。）	
募集人数	1人	
募集分野	生産環境農学分野	
所属先	学術研究院（農学部寄附講座（食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座））	
業務	業務内容	大学附属農場及び現地実証圃場における畑作物（馬鈴薯、大豆、小麦等）の輪作体系の構築等の当該寄附講座に関する業務
	担当授業	なし
	研究分野	[大分野] 農学 [小分野] 生産環境農学
勤務地	山形大学農学部 附属やまがたフィールド科学センター（農場） 〒997-0369 山形県鶴岡市高坂字古町5-3	
応募資格	(1) 国立大学法人山形大学教員選考規程の第4条（准教授の資格）を満たしていること。（山形大学ホームページ、例規集「国立大学法人山形大学教員選考規程」参照、URL: <a href="https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000141.html">https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000141.html</a> ） (2) 博士の学位を有する方あるいは同等の研究能力を有する方。 (3) 生産環境農学分野の研究に実績があり、研究に意欲的に取り組める方。	
待遇	年俸制。本学規程に基づき、経歴に応じて給与年額を決定する。	
募集期間	2018年2月19日まで（必着）	
着任時期	2018年4月1日	
応募書類	(1) 履歴書（教員候補者個人調書） 様式は公募URLから取得 13部（正本1部、コピー12部） 正本に写真を貼付 (2) 研究業績書 様式は公募URLから取得 12部 (3) 原著論文、著書、総説の別刷り（コピー可） 各3部 (4) 研究に関する実績（外部資金の獲得状況などを含む）と抱負（1000字程度） 様式自由 12部 (5) 社会貢献に関する実績（学会活動、地域・国際貢献活動など）と抱負 様式自由 12部 (6) 組織内業務と管理・運営などの実績と抱負 様式自由 12部 (7) 応募者について照会が可能な方2名の氏名と連絡先 様式自由 1部	
送付先その他	〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部 寄附講座プロジェクト教員選考委員会委員長 林田 光祐  応募書類は、封筒の表に「教員応募書類在中」と朱記し、書留、簡易書留または宅配便など送付を証明できる方法で送付（国外から送付する場合はこれに準ずる方法で送付）して下さい。 (1) 応募書類の返却を希望する場合は、その旨を明記し、着払いの送り状を添付して下さい。 (2) 応募書類に含まれる個人情報は、本選考及び採用業務に限定して利用します。 (3) 山形大学は、男女共同参画を推進しています。 (4) 選考経過に関する問い合わせには応じません。	
選考方法	(1) 第1次選考（書類選考）：応募書類により総合的に選考を行います。 (2) 第2次選考（面接）：第1次選考（書類選考）の合格者に対し面接を実施し適任者の選考を行います。 (3) その他：①選考の過程で必要が生じた場合には、応募書類（7）の方に照会することがあります。 ②第2次選考の面接のため来学いただく場合の旅費は支給しません。	
問合せ先	住所	〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部
	宛先	寄附講座プロジェクト教員選考委員会委員長 林田 光祐
	メール	hayasida@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp
	電話	0235-28-2805（総務担当）
	F A X	0235-28-2812

## 履歴書（教員候補者個人調書）

山形大学農学部

ふりがな	やまだ たろう			写真貼付 (縦5cm×横4cm)
氏名 (英語表記)	山田 太郎 YAMADA, Taro		印	
性別	男・女			
生年月日(年齢)	昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)			
現住所				
連絡先メールアドレス				
連絡先電話番号				
専門分野 (英語表記)	植物園芸学 Horticulture			
専門分野の内容 (英語表記)	病害抵抗性育種に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on plant breeding for disease resistance			
学 歴				
平成△△年□□月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科入学			
平成△△年□□月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業・学士(農学)			
平成△△年□□月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程(博士前期課程)〇〇専攻入学			
平成△△年□□月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程(博士前期課程)修了・修士(農学)			
平成△△年□□月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程(博士後期課程)〇〇専攻入学			
平成△△年□□月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程(博士後期課程)修了 (又は単位修得退学)			
学 位				
年月	学位の種類	取得大学名	学位論文の題名	
平成△△年□□月	博士(農学)	〇〇大学	.....に関する研究	
職 歴 (研究歴を含む)				
平成△△年□□月	〇〇大学〇〇学部 研究生(平成△△年□□月まで)			
平成△△年□□月	株式会社〇〇産業〇〇研究所 入社			
平成△△年□□月	株式会社〇〇産業〇〇研究所 退社			
平成△△年□□月	学校法人〇〇大学〇〇学部助手 採用			
平成△△年□□月	学校法人〇〇大学〇〇学部助手 退職			
平成△△年□□月	〇〇大学 講師 〇〇学部			
平成△△年□□月	〇〇大学 准教授 〇〇学部			

学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等	
平成△△年□□月	〇〇学会会員
平成△△年□□月	◇◇学会会員
平成△△年□□月	〇〇学会評議員(平成〇年〇月まで)
平成△△年□□月	△△国際シンポジウム研究発表(ワシントン)
平成△△年□□月	□□県△△審議会委員(平成〇年〇月まで)
免 許 資 格 等	
平成△△年□□月〇〇日	高等学校教諭(1種免許状)理科
平成△△年□□月〇〇日	測量士補
平成△△年□□月〇〇日	食品衛生管理者
平成△△年□□月〇〇日	大型特殊自動車運転免許
平成△△年□□月〇〇日	第Ⅰ種放射線取扱主任者
賞 罰	
平成△△年□□月〇〇日	日本〇〇学会〇〇賞「〇〇に関する研究」
平成△△年□□月〇〇日	日本〇〇学会〇〇賞「〇〇に関する研究」
教 育 研 究 業 績	
	別紙記載のとおり

# 研究業績書

氏名 山田太郎

研 究 業 績	
1 著書	山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) 1) ……の基礎理論 〇〇堂, 130 ページ  山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) 2) ……について 高橋二郎編: ……に関する研究 〇〇書院, 第3章 111-132
2 学術論文	a 博士論文  1) 山田太郎. 19〇〇(昭和〇〇年) ……に関する研究 〇〇大学(農学博士)  b 原著論文  山田太郎. 19〇〇(昭和〇〇年) 1) ……に関する研究, 〇〇学会誌, 〇巻:123-130, 【査読有り】  山田二郎・庄内三郎・山田太郎. 19〇〇(平成〇〇年) 2) ……に関する研究, 〇〇大学農学部報告, 〇巻:123-130, 【査読なし】  YAMADA, J., YAMAGATA, U. and YAMADA, T. 19〇〇(平成〇〇年) 3) Studies on the …… Journal of Japanese ……Sciences, Vol.〇:123-130, 【査読有り】【Corresponding author】  YAMADA, J., YAMADA, T. and YAMAGATA, U. 20〇〇(平成〇〇年) 4) Effect of …… Journal of Experimental ……Sciences, Vol.〇:222-234, 【査読有り】【Equal contribution】  5)
3 総説	山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) 1) ……の展望. 〇〇学会誌, 〇巻:123-130.
4 学会賞	山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) 1) ……に関する研究. 〇〇学会賞(平成〇〇年〇〇月〇〇日)
5 特許	山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) ……の作出法 1) 出願番号:〇〇〇〇(平成〇〇年〇〇月〇〇日) 登録番号:〇〇〇〇(平成〇〇年〇〇月〇〇日)
6 品種登録	山田太郎 19〇〇(平成〇〇年) 1) 種類:稲, 登録品種の名称:〇〇〇〇 登録番号:〇〇〇〇(平成〇〇年〇〇月〇〇日)

7 その他の著作物		
山田太郎. 2000(平成00年) 1) ……に関する調査報告 00大学附属00報告, 0巻:123-130  山田太郎. 2000(平成00年) 2) ……に関する新発見 00新聞(平成00年00月00日)		
研 究 業 績 概 要		
1	著 書	編 (うち最近5年 編)
2	学 術 論 文	編 (うち最近5年 編)
3	総 説	編 (うち最近5年 編)
4	学 会 賞	件 (うち最近5年 件)
5	特 許	件 (うち最近5年 件)
6	品 種 登 録	件 (うち最近5年 件)
7	そ の 他 の 著 作 物	編 (うち最近5年 編)

#### 記載上の留意点

- 古いものから順に列挙する。
- 通し番号、著者(共著者含め)、発表年、論文題目、掲載誌、巻(号)ページの順に記載し、本人の氏名に必ずアンダーラインを付すこと。また、原著論文は査読の有無を【】書きで示し、併せて連絡先著者【Corresponding author】、筆頭著者同等貢献者【Equal contribution】の場合には、その旨を【】書きで示すこと。
- 欧文の論文名は原文をそのまま用いるのではなく、以下の要領により記載する。  
 YAMADA, J., YAMAGATA, U. and YAMADA, T. 2002(平成14)年. Isolation of (-)-cyatha-3,12-diene, …… a in a cell-free system.
- 年号はすべて、「20□□(平成△△)年」と記載する。
- 著者名あるいは編者名は10名まで(それ以上は, et al.又は他を付ける)記載する。  
 欧文の場合は以下の要領により記載する。  
 YAMADA, J., YAMAGATA, U. and YAMADA, T.
- 著書分担執筆等の場合には、担当ページを含め以下の要領により記載する。  
 博友社、99-121.  
 また、発行機関誌名等は、略称名を用いないで記載し、巻(号)、頁も加え、以下の要領により記載する。  
 Tetrahedron Letters, 42, 7439-7442.
- 学会発表の講演要旨、科学研究費補助金報告書は、学术论文やその他に記載しない。